

けんぽく農林ニュース

～「くだもの・きゅうり・花き王国の飛躍と農林業の持続的な発展」～

令和6年12月26日発行 第104号



**味よし！香りよし！「ゆうやけベリー」
（福島県オリジナル品種「ゆうやけベリー」の出荷が始まりました！
口いっぱい広がる幸せを、ぜひご堪能ください！）**

～目次～

- 野生山菜の出荷制限 P 1
- 第2回安達地域新規就農向け研修会「施設野菜」を開催しました P 2
- 令和6年度フレッシュ農業講座を開催しました P 3
- 生き物引っ越し大作戦と睦合小学校児童の水生生物勉強会を開催しました P 4
- 「明日の明るい伊達地方を語る懇談会」が開催されました！ P 5
- 福島・川俣地域農業経営セミナーを開催しました P 6
- 令和6年度農村整備部安全パトロールを実施しました！ P 7
- 新規就農者・就農希望者向け「農作業安全セミナー」を開催しました P 8
- 「おいしいけんぽくフォトコンテスト」と「簡単にできる自慢のレシピコンテスト」開催 P 9
- ぶどう栽培技術「盛土式根圏制御栽培」の現地検討会を開催しました P10
- 小学校3校を対象とした花育活動を実施しました P11
- 「令和6年度県北地方フラワーネットワーク検討会」を開催しました！ P12
- 令和6年度県北地方特定家畜伝染病防疫演習を開催しました P13
- 県北管内の生産者が県林業コンクール・きのこ品評会で入賞しました P14
- 令和6年度食品表示法研修会を開催しました P15
- 令和6年度県北地方園芸振興セミナーを開催しました！ P16
- 「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン in あだち を実施しました P17
- 「県北フルベジキャンペーン」開催中 P18
- 「伊達地域有機農業相談会」を開催しました P19
- 「伊達のおんぼ柿」102年目の加工が始まりました P20
- 「先進的な農業の学習・かかし作り」を行いました！ P21
- 令和6年度田んぼの学校「稲刈り」と「脱穀」を行いました！ P22
- 国見小学校の児童が「天のつぶ」の稲刈りをしました P23
- 「ふくしまの農村学びの場現地見学会」を行いました P24
- 令和6年度県北地方植樹祭が開催されました P25
- 「おおたま村づくり株式会社」が豊かなむらづくり全国表彰事業で東北農政局長賞を受賞 P26
- 『栗本堰を訪ねる小学生勉強会』が開催されました P27
- 「令和6年度安達地域担い手資質向上セミナー」を開催しました P28
- 令和6年度多面的機能支払交付金県北方部研修会を開催しました P29
- 林業アカデミーふくしま長期研修生募集 P30

野生山菜の出荷制限

12月になると、ふきのとう（野生）の発生が見られます。ふきのとう（野生）は、福島市、伊達市、本宮市、桑折町、国見町、川俣町で出荷が制限されていますので、以下の行為をしないでください。

- 1 店舗や料理店等への出荷
- 2 乾燥や水煮などの加工品の原料への使用
- 3 フリマアプリ・無人直売所等の個人売買での出荷
- 4 他人への譲渡

また、その他の野生の山菜類についても、市町村・品目ごとに出荷が制限されているものがあります。

出荷制限品目等の確認は以下をご覧ください。

【福島県林業振興課ホームページ

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36055c/ringyo-monitoring.html>】



出荷が制限されていない野生の山菜類について、出荷する場合は県のモニタリング検査を受ける必要がありますので、当所へお知らせください。

【担当部署：森林林業部林業課 電話：024-521-2632】



福島県農林水産物・加工食品モニタリング情報
ホームページ

(<https://www.new-fukushima.jp/top>)



HPの二次元コード



ふきのとう(野生)の出荷制限位置図

【担当部署】森林林業部

【振興方向】1 東日本大震災及び原子力災害からの復興加速化

第2回安達地域新規就農向け研修会「施設野菜」を開催しました

令和6年9月12日（木）、安達地域担い手支援連携会議主催による第2回安達地域新規就農向け研修会を二本松市、本宮市で開催しました。当管内の新規就農者の就農品目は、価格が安定しており、収益性が高いことから野菜が多く、更なる農業経営の安定化に向け今後の経営の参考にできるよう気象災害にも強い「施設野菜」について学ぶ研修会を開催しました。管内から7名、福島市から3名の方が参加しました。

研修会は、就農2年目のミニトマト農家と安達地域指導農業士会前会長であるアスパラガス・ミニトマト農家の施設を訪問し、「就農までの経緯」や「これから就農する方へのアドバイス」など、ご自身の経験をもとにした助言をいただきました。

特に、参加者の興味・関心が高かったアスパラガスについては、「アスパラガスの収益性」や「栽培管理」等、多くの質問が寄せられました。移動中の車内では、参加者から事前にいただいた質問事項に当所職員が回答しました。

アンケートでは、「子育てをしながらの大変さ、資金面、失敗談などが参考になった」「アスパラガスについて、今後の導入を考えていたのでとても参考になった」等の感想が寄せられました。

当普及所では、関係機関・団体と連携し、就農希望者が就農しやすく、就農後定着できるよう引き続き支援していきます。



就農2年目の農家より就農までの経緯などについて説明を受ける参加者

前安達地域指導農業士会長からアスパラガスの栽培管理について説明を受ける参加者

【担当部署】安達農業普及所

【振興方向】2 農林業の持続的な発展を支える担い手の確保・育成と生産基盤の強化

令和6年度フレッシュ農業講座を開催しました

令和6年10月16日（水）、当所主催で、福島県立福島明成高等学校生物生産科2年生72名を対象に「令和6年度フレッシュ農業講座」を開催しました。

この講座は農業高校生の就農意欲向上のために毎年開催しているもので、今年度は生徒の専攻ごとに3つのコースに分かれて現地見学を行いました。

栽培・飼育コースでは、水稲・大豆栽培及び農産加工品の製造・販売を行う生産者と酪農を行う生産法人、野菜・果樹コースでは、果菜類等野菜を出荷する生産者、草花コースでは、トルコギキョウ栽培を行う生産者のほ場を見学しました。

参加した生徒は、生産者の説明を聞き、実際の農業の姿を熱心に学んでいました。

講座後のアンケートでは、農業や見学先に興味を持ったとの回答が多く見られ、講座を通して農業に対する関心が深まっていました。

また、普段直接見ることができない機械や設備などを見学することで、農業についての知識を向上させることもできたようです。

当所では、今後も農業高校生徒の就農意欲向上が図られるよう支援していきます。



水稲施設の見学



酪農施設の見学



野菜ほ場の見学



トルコギキョウほ場の見学

【担当部署】 農業振興普及部

【振興方向】 2 農林業の持続的な発展を支える担い手の確保・育成と生産基盤の強化

生き物引っ越し大作戦と睦合小学校児童の水生生物勉強会を開催しました

令和6年10月25日（金）、桑折町の成田溜池でアクアマリンふくしま職員指導の下、生き物の引っ越しと、睦合小学校5、6年生の水生生物の勉強会を開催しました。

老朽化した成田溜池の改修工事を行う前に実施した引っ越し作業は、午前中、地元住民が見守る中、アクアマリンふくしま職員の指導の下、（株）近藤組、桑折町役場職員、当所職員の総勢18人で池内溜池の魚を捕獲し生け簀に入れ、トラックに積んで睦合小学校のプールまで運び放流しました。

午後からは、睦合小学校の5、6年生を対象に、学校の体育館でアクアマリンふくしまの職員による水生生物勉強会が行われ、成田溜池や近くの田んぼや水路で捕獲して水槽に入れた生物の説明を受けながら、身近に生息している生物の多様性について勉強しました。



成田溜池での魚の捕獲



魚を放流後の睦合小学校プール



睦合小学校5、6年生の勉強会



アクアマリンふくしま職員による水生生物勉強会

【担当部署】農村整備部

【振興方向】2 農林業の持続的な発展を支える担い手の確保・育成と生産基盤の強化

「明日の明るい伊達地方を語る懇談会」が開催されました！

令和6年10月31日(木)、伊達市みらいホール保原で伊達地方農業士会及び青年農業者組織DATECの共催による「明日の明るい伊達地方を語る懇談会」が開催されました。

同懇談会は隔年で開催され、今回は「農業資源を観光にどう活かしていくか～自分たちが住むまちをもっと知ってもらおう。町に住む人も元気になってもらう。そして自分たちも儲かる！～」をテーマに、「福島県観光物産館櫻田武館長が考える農業と観光」と題した基調講演と、青年農業者が各々考える「農業と観光」について発言し、出席者からの質疑応答や指導農業士や関係機関から助言を行う形で意見交換を行いました。

青年農業者からは、櫻田館長へ「物産館のお客様は何を見て商品を購入しているのか」「観光客に売れるパッケージは」などの質問が出ました。また、「世界に一つだけの伊達の畑、食べる、買うだけでなく景観や空気感など来てもらうことの良さを感じてほしい」「販売場所や在庫を共有できるアプリを開発してほしい」「自分でできることは限られているが皆で頑張っていきたい」との意見が出され、それぞれの発言に対し活発な意見交換が行われました。当普及所からも「Google Mapsを使用したりんごの観光マップ」の事例紹介を行いました。

当普及所では、明日の明るい伊達地方の農業を実現するために、指導農業士や関係機関とともに引き続き支援していきます。



講演する福島県観光物産館櫻田館長



意見を述べる青年農業者



青年農業者の質問に答える行政担当者



情報提供する当普及所職員

【担当部署】伊達農業普及所

【振興方向】2 農林業の持続的な発展を支える担い手の確保・育成と生産基盤の強化

福島・川俣地域農業経営セミナーを開催しました

令和6年11月7日（木）、県庁において、福島・川俣地域農業経営セミナーを開催しました。本セミナーは、農業者の経営に関する知識習得を目的として、福島市及び川俣町の認定農業者等を対象に毎年開催しています。

今年度は、始めに（一般社団法人）福島県農業会議の尾久晴紀氏から「これからの経営発展に向けた農業経営の法人化について」と題して御講演いただきました。尾久氏からは、「法人化ってどういうこと？」、「法人化による環境変化」について分かりやすく解説いただきました。法人化を検討するなら、まず目的を明確にし、目的に沿った事業計画を作成することが大切とのお話がありました。

続いて株式会社東邦銀行法人コンサルティング部の木村信綱氏から「攻めの販売戦略とパッケージデザインについて」と題して御講演をいただきました。木村氏はデザインの専門家かつ福島県普及指導協力委員でもあります。木村氏からは、“販売戦略及びパッケージデザインの考え方”について、実践事例を例に分かりやすく解説していただきました。今回は、参加した農業者が制作した商品パッケージ等のデザインについても御助言いただき、参加者も関心を示していました。

当所では、今後とも農業者の経営に関する知識習得支援及び情報の提供に努めていきます。



尾久晴紀氏の講演



木村信綱氏の講演

【担当部署】 農業振興普及部

【振興方向】 2 農林業の持続的な発展を支える担い手の確保・育成と生産基盤の強化

令和6年度農村整備部安全パトロールを実施しました！

令和6年11月8日（金）、農村整備部で発注している工事において、安全に施工しているかを点検する安全パトロールを実施しました。

県有施設大笹生ダムの老朽化した放水路トンネルの補強工事、川俣町山木屋地区の水路工事、桑折町成田溜池地区のため池工事、大玉村荒池地区のため池工事の4現場を農村整備部職員8名、総務部3名で工事進捗状況の把握と現場管理、安全管理、衛生管理の実施状況などを点検しました。



大笹生ダム放水トンネル内の照明施設の設置状況



川俣町山木屋地区の水路工事の実施状況



桑折町成田溜池地区のため池工事の実施状況



大玉村荒池地区のため池工事の実施状況

【担当部署】 農村整備部

【振興方向】 2 農林業の持続的な発展を支える担い手の確保・育成と生産基盤の強化

新規就農者・就農希望者向け「農作業安全セミナー」を開催しました

令和6年11月15日（金）、当所主催で「令和6年度福島・川俣地域新規就農者研修会」（全3回）の第1回「農作業安全セミナー」を農業総合センター果樹研究所で開催し、16名が受講しました。

この研修会は新規就農者と就農希望者を対象とし、安心して営農を開始し、持続的に発展していけるよう支援することを目的としています。

講義は、①農作業安全やその対策についての講義、②刈り払い機の点検・整備の方法を実演、③刈り払い機の操作実習を行い、受講生からは活発な質問もあり真剣に農機具を扱う姿が印象的でした。

今後の予定として、令和6年12月12日（木）に第2回「農薬とGAPの基礎」、令和7年1月23日（木）に第3回「就農（農地、税務、資金）に関する実務と農業経営の基礎」を開催します。

当所では、今後も新規就農者と就農希望者を対象とした支援を継続し、地域農業の発展に貢献していきます。



刈り払い機の点検の実演



刈り払い機を操作する受講者

【担当部署】 農業振興普及部

【振興方向】 2 農林業の持続的な発展を支える担い手の確保・育成と生産基盤の強化

「おいしいけんぽくフォトコンテスト」と「簡単にできる自慢のレシピコンテスト」開催

当所では「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンの一環として、県北地方の農林産物の認知度を高めるため、SNS キャンペーンを開催しています。（簡単にできる自慢のレシピコンテストは12月27日まで開催中）。

【おいしいけんぽくフォトコンテスト】

実施期間：令和6年9月9日（月）～10月31日（木）

おいしいけんぽくフォトコンテストへのご応募ありがとうございました。

ただいま、入賞作品を選定中です。

入賞した方には6次化商品をお送りします。

入賞作品は決まり次第、HPで公開予定です。



おいしいけんぽくフォトコンテスト
【県北地方の日常にある農林産物や心に残る風景】
期間2024年9月9日～2024年10月31日

【簡単にできる自慢のレシピコンテスト】

簡単にできる自慢のレシピコンテストを開催中です。

ごはんまたは米粉を使ったレシピコンテストです。

たくさんのご応募お待ちしております。

■応募期間：令和6年11月1日（金）～12月27日（金）

■応募方法

当所インスタグラム（下記二次元コードを読み取りください。）をフォローして「#おいしいけんぽくごはん2024」をつけて投稿してください。

※詳細は当所HPを御覧ください。

URL：<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36210a/>



レシピコンテストチラシ



二次元コード

【担当部署】企画部

【振興方向】3 安全で魅力的な農林産物の安定供給と販売促進

ぶどう栽培技術「盛土式根圏制御栽培」の現地検討会を開催しました

令和6年9月19日（木）、福島市笹谷で、ぶどうの「盛土式根圏制御栽培」の現地検討会を開催しました。当日は県内の果樹生産者や関係機関含めて49名が集まりました。

「盛土式根圏制御栽培」は、遮根シートで地面と隔離した盛土に苗木を植え付け、点滴チューブを設置して水と肥料の配分を調整しながら育成する栽培技術です。苗木を植えてから2年目で樹形が完成するため、早期多収が期待でき、さらに、樹形をV字型に仕立て、主枝を1方向に定めることで、作業の省力化も図ることができます。

当所では、令和元年に松川町の生産者園地に現地実証ほを設置し、生育調査や栽培管理支援を行っています。例年、現地実証ほで現地検討会を開催しておりましたが、今年度は栽培2年目の園地を会場とし、栽培2年目の生育経過、収量等を確認していただきました。

今年度は10aあたり1.8tのぶどうが収穫され、慣行栽培以上の収量を得ることができました。作業動線が単純化されることで、整枝せん定にかかる時間が慣行栽培に比べて4割減少するなど一定の成果が得られました。

検討会では、当所職員から現地実証ほの成果の説明を行い、園主である生産者から栽培管理の中で気づいた点などをお話していただきました。また、「根域制御栽培のかん水と施肥」をテーマに、夏場の高温時の対応、品種ごとの施肥量等について意見交換を行いました。

参加者は栽培方法や設備などを実際に確認しながら、質問や意見交換を行い技術への理解を深めていました。

当所では、引き続き根圏制御栽培の導入支援、栽培支援を実施していきます。



検討会の様子



生産者から栽培状況説明

【担当部署】 農業振興普及部

【振興方向】 3 安全で魅力的な農林産物の安定供給と販売促進

小学校3校を対象とした花育活動を実施しました

当所では、令和4年度に生産、流通、販売及び利用に関わる組織で構成する県北地方フラワーネットワークを設置し、地域で生産される花きの認知度向上や利用促進に向けた活動を行っています。

その一環として、将来の社会活動の中心を担う地域の児童が直接花に触れ、花の魅力や地元での花き生産について学ぶとともに、花きへの興味・関心を醸成できるよう、県産花きを活用した花育活動を行っており、その活動についてご紹介します。いずれの活動も当所・当普及所職員により、県内で生産されている花きとその特徴について紹介するとともに、地元生花店の協力を得て、フラワーアレンジメント体験を行いました。

- 農業振興普及部では、令和6年9月25日（水）、福島市立佐原小学校で6名の児童を対象に、「さばら生花」の高橋譲二氏を講師に実施しました。

県産花きの紹介では、児童が興味深く説明を聞く姿がみられ、フラワーアレンジメント体験では、花に直接触れながら、それぞれの感性でアレンジ作成を楽しんでいました。

- 伊達農業普及所では、令和6年10月29日（火）、伊達市立保原小学校の6年生96名を対象に、伊達市「花茂里（はなもり）」の盛藤有美氏を講師に実施しました。アレンジメント体験では、児童たちは自由に花を活けており「家に帰ったらお父さんお母さんに見せて学んだことを教えたい」という意見が出るなど、花を愛でるライフスタイルを体験した子供たちの良い思い出となる活動となりました。

- 安達農業普及所では、令和6年11月5日（火）、本宮市立白岩小学校の6年生19名を対象に、二本松市「花のチカミ」の近美豪人氏を講師に実施しました。

多くの生徒達は初めてのフラワーアレンジメント体験でしたが、和気藹々と個性豊かな作品を作っていました。



佐原小学校児童の作品



保原小学校児童の作品



白岩小学校における
アレンジメント体験の様子

【担当部署】 農業振興普及部、伊達農業普及所、安達農業普及所

【振興方向】 3 安全で魅力的な農林産物の安定供給と販売促進

「令和6年度県北地方フラワーネットワーク検討会」を開催しました！

令和6年10月3日（木）、JAふくしま未来岩代営農センターで、当所主催による「令和6年度県北地方フラワーネットワーク検討会」を開催しました。

本ネットワークは、JAや県北地方の生花店、花き利用施設、市場等、花きの生産から利用に関わる組織で構成され、県北地方で生産される花きの認知度向上や地元での利活用促進に向けて活動を行っており、今回は9名が参加しました。

検討会では、グラフィック、ウェブデザインの専門家で福島県普及指導協力委員の木村信綱氏による動画講演「地産花きのPR効果が上がるデザイン、展示の方法について」を視聴し、効果的なPR手法について学ぶとともに、ポスターを活用した県北地方の花きの情報発信等、地産花きの認知度向上に向けた取組について協議を行いました。

協議後、りんどう栽培ほ場においてJAふくしま未来の花き担当者及び生産者から産地の概要や栽培について説明を受け、県北地方の主要花きであるりんどうについて理解を深めました。

当所では、今後も引き続きネットワークの活動を通して、県北地方の花きの認知度向上を図っていきます。



県北地方の花きの認知度向上に向けた取組に係る協議



りんどう栽培ほ場視察

【担当部署】 農業振興普及部

【振興方向】 3 安全で魅力的な農林産物の安定供給と販売促進

令和6年度県北地方特定家畜伝染病防疫演習を開催しました

令和6年10月23日(水)、二本松市東和第一体育館で「令和6年度県北地方特定家畜伝染病防疫演習」を開催しました。

本演習は特定家畜伝染病の発生を想定し、県北地方対策本部職員の対応能力向上及び関係機関との連携強化を図ることを目的に毎年開催しており、当日は県北管内の市町村、団体、警察署、県建設業協会、関係機関の職員138名が参加しました。

体験型防疫演習「消毒ポイント」では、二本松警察署から車両誘導の注意点、(一般社団法人)福島県ペストコントロール協会から車両消毒に係る作業上のポイント、日本建設機械レンタル協会福島支部から投光器の取扱い方法及び注意点について説明いただき、その後、消毒ポイント運用時の一連の作業の流れを実演のうえ確認しました。

体験型防疫演習「集合センター」では、31名の動員者役を本庁から受け入れ、誘導及び受付、防護服等の着脱、手荷物受払い等を実演しました。体験型防疫演習「農場隣接テント及び農場」では、防護服等の着脱に加え、福島県一般高圧ガス協会からガスボンベの取扱い及び注意点について説明いただき、鶏の模型を使用した捕鳥、運搬、殺処分、搬出等を実演のうえ確認しました。

当所では、今後とも関係機関・団体と連携を密にし、万が一特定家畜伝染病が発生した場合に万全な体制がとれるよう引き続き取り組んでいきます。



消毒ポイントの車両消毒



集合センターの受付



模型を使った捕鳥

【担当部署】 農業振興普及部

【振興方向】 3 安全で魅力的な農林産物の安定供給と販売促進

県北管内の生産者が県林業コンクール・きのこ品評会で入賞しました

県では、林業技術の向上と林業経営の改善を図り、本県林業発展推進を目的とした県林業コンクールを開催しています。今年度は山林苗畑部門で福島市の種苗生産会社である株式会社福島植物園が福島県森林組合連合会代表理事会長賞を受賞し、令和6年10月26日(土)に表彰式が行われました。

株式会社福島植物園は、少花粉スギ苗木(*1)の生産やスギ特定母樹(*2)苗木の生産に尽力し、県内の花粉の少ない森林づくりに貢献されています。今回は有機肥料と化成肥料をバランス良く組み合わせ、根茎が発達し、徒長がみられない品質の高いスギ苗を生産されている点が評価され、受賞となりました。

令和6年10月24日(木)にはきのこ生産技術の改善による品質の向上と需要の拡大を促進し、きのこ産業の発展に寄与することを目的とした「きのこ品評会」が開催され、県北管内からは4名の方が入賞しました。福島市の山田康人さんは、乾しいたけ部門で県内トップの林野庁長官賞と、生しいたけ菌床栽培部門で福島県知事賞のW受賞となりました。

また、生しいたけ原木栽培部門では、本宮市の渡邊富士雄さんが(公社)福島県森林・林業・緑化協会会長賞を、伊達市の大橋茂美さんが全国農業協同組合連合会福島県本部長賞を、伊達市の齋藤憲一さんが福島県きのこ振興協議会会長賞を受賞しました。10月の気温が平年より高く、きのこの品質管理が難しい中、皆様、散水や換気等の高温対策に尽力されたとのこと。

各種コンクールを通じて生産者の皆様の様々な努力を知り、改めて尊敬の念を抱く機会となりました。コンクールに参加された皆様の今後の御活躍を御祈念申し上げます。

(*1)少花粉スギ苗木：雄花を全く着けないかごくわずかししか着けず、花粉飛散量の多い年でもほとんど花粉を出さない(花粉量1%以下)品種のスギ

(*2)スギ特定母樹：成長量がよく(通常の1.5倍)、材質がよく(通直で強い)、花粉が少ない(通常の半分以下)等、優秀な遺伝子を持つスギ



福島植物園 松浦代表取締役



福島市 山田康人さん



伊達市 大橋茂美さん



伊達市 齋藤憲一さん

【担当部署】 森林林業部

【振興方向】 3 安全で魅力的な農林産物の安定供給と販売促進

令和6年度食品表示法研修会を開催しました

消費者の食品表示に対する信頼を高めるため、令和6年11月1日（金）、当所主催で「食品表示法研修会」を県庁で開催しました。当日は農産物の加工・販売事業者、農産物直売所関係者、菓子や総菜等を扱う食品関係事業者など、55人が参加しました。

研修会では、はじめに当所職員より原料原産地制度等の「品質事項」について講義を行いました。続いて、県北保健所職員よりアレルギー、添加物、賞味期限等の「衛生事項」、栄養成分表示等の「保健事項」について講義を行いました。

消費者の食生活が多様化し、産地偽装など不正事案も発生していることから、食品表示法に定める食品表示基準は例年改正されています。

当所では、事業者からの個別相談への対応や研修会の開催を通じて、引き続き食品表示の適正化を推進していきます。



栄養成分表示などについて説明する
県北保健所職員



熱心に耳を傾ける参加者

【担当部署】企画部

【振興方向】3 安全で魅力的な農林産物の安定供給と販売促進

令和6年度県北地方園芸振興セミナーを開催しました！

令和6年11月6日（水）、JA福島ビルで、当所と「県北地方新たなふくしまの未来を拓く園芸振興推進会議」の主催による、「令和6年度県北地方園芸振興セミナー」を開催しました。

本セミナーは園芸品目の振興を目的に毎年開催していますが、今回は県北管内で導入が進んでいる県育成オリジナル品種「ゆうやけベリー」（いちご）をテーマに開催し、生産者や関係機関・団体職員等53名が参加しました。

セミナーでは、農業総合センター品種開発科職員から「ゆうやけベリーの育成と品種特性について」、野菜科職員から「ゆうやけベリーの栽培管理について」、流通加工科職員から「ゆうやけベリーの果実特性について」と題し、それぞれ最新の試験研究結果を交えながら講演と、伊達農業普及所職員から、伊達地域における「ゆうやけベリー」栽培事例について事例発表を行いました。

参加者からは、親株の管理、病害虫対策、暖候期の栽培管理等多くの質問があり、「ゆうやけベリー」の栽培技術向上に対して熱意が感じられる内容となりました。

当所では、今後も引き続き、他品種と組み合わせた「ゆうやけベリー」の作付により、県北管内のいちご生産者の年内出荷量の確保や所得向上につながるよう、生産安定・品質確保に向け、「ゆうやけベリー」の生産を支援していきます。



開催挨拶を述べる
農業振興普及部長



農業総合センター職員による
果実特性の説明



収穫を迎えた今年の
ゆうやけベリー

【担当部署】 農業振興普及部

【振興方向】 3 安全で魅力的な農林産物の安定供給と販売促進

「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン in あだち を実施しました

令和6年11月24日（日）、二本松市の道の駅安達上り線で令和6年度「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを実施しました。

本キャンペーンはアグリビジネス・ネットワークあだちと共催し実施したもので、福島県のお米のトップブランドである「福、笑い」のPRとアグリビジネス・ネットワーク会員による安達地域の農産物や加工品等の販売を行いました。

「福、笑い」については、ふくしまライシーホワイトの岡部さんに協力いただきアグリビジネス・ネットワークあだち会員の製造した「おにぎり」の試食を行った他、「福、笑いクイズ」を実施し、参加者には「福、笑い」の6次化商品をプレゼントし、おいしさや特徴をPRしました。試食後のアンケートでは、「福、笑い」について「おいしい」といった感想が多くありました。

また、GAPのコーナーでは、来場者に対してチラシを配布しGAP推進に係る取組を説明するとともに、GAP認証農産物の認知度についてシール式アンケートを実施しました。

アンケートの結果、GAP認証農産物を見たことがある来場者は約4割でした。その他、来場者から、「GAPは知っているが、販売していることを知らなかった」、「GAP認証農産物(トマト)を購入したところ美味しかった」等の感想が寄せられました。

当所では、今後も県北産農林産物の地産地消・消費拡大に向けた取組を関係機関・団体と連携しながら実施していきます。



「福、笑い」クイズで来場者へPRする
ふくしまライシーホワイトの岡部さん
と穴戸所長



GAPのアンケートとPRの様子

【担当部署】企画部

【振興方向】3 安全で魅力的な農林産物の安定供給と販売促進

「伊達地域有機農業相談会」を開催しました

令和6年11月27日（水）、伊達合同庁舎会議室において、「伊達地域有機農業相談会」を開催しました。

本相談会は、有機農業に関心がある方に対し、専門的な栽培技術や、ほ場の選び方、使用できる資材、有機 JAS 制度等について情報を提供し、相談者と話し合うことで、有機農業志向者の掘り起こしと、取組拡大を促進するために福島県農業総合センター有機農業推進室が企画しました。

当日は3名の農業者の参加があり、「有機 JAS 認証を取得して他の農産物と差別化を図るため、有機 JAS 制度について詳しく知りたい」「将来有機農業をはじめるとの予定であり、有機栽培に使用可能な資材等について知りたい」といった相談がありました。

当普及所では、引き続き関係機関と連携し、環境と共生した持続可能な農業を推進していきます。



熱心に相談する相談者

【担当部署】伊達農業普及所

【振興方向】3 安全で魅力的な農林産物の安定供給と販売促進

「伊達のあんぽ柿」102年目の加工が始まりました

今年も伊達地方の冬の特産品「伊達のあんぽ柿」の加工が始まりました。伊達のあんぽ柿は、鮮やかなオレンジ色の果肉と、柔らかく口当たりの良い食感、そして上品な甘みが特徴です。

伊達のあんぽ柿は大正時代に伊達市梁川町五十沢地区で生産技術が確立され、大正12年（1923年）には五十沢あんぽ柿出荷組合が設立され加工が本格化し、今年で102年目となります。令和5年1月31日には日本地理的表示いわゆるGIの登録も受けました。

令和5年1月13日に「伊達のあんぽ柿の日」として、12月13日、1月13日、2月13日が記念日に制定されました。

各あんぽ柿生産者の加工場や、JAふくしま未来が運営するあんぽ柿加工選抜包装施設「あんぽ工房みらい」では、今年も10月末頃より、原料柿の皮むき、連（れん）作り、硫黄くん蒸、乾燥という一連の加工作業が行われています。今年のおあんぽ柿の出荷は11月中旬頃から順次始まっています。ぜひ「福島冬の味覚」をお楽しみください。



あんぽ柿生産者による連（れん）作り作業



あんぽ柿生産者による乾燥工程



あんぽ工房みらいにおける連（れん）吊り作業



あんぽ工房みらいにおける乾燥工程

【担当部署】伊達農業普及所

【振興方向】3 安全で魅力的な農林産物の安定供給と販売促進

「先進的な農業の学習・かかし作り」を行いました！

令和6年9月10日（火）、モデル小学校として「田んぼの学校」に取り組んでいる「二本松市立東和小学校」で、先進的な農業の学習とかかし作りを行いました。

かかし作りの授業にあたっては、事前に布沢の環境を守る会の菅野（すげの）代表に先生になっていただき、事前にかかしの意味や役割を学んだ上で、児童たちにどんなかかしを作りたいかしっかり考えてもらい、作業に取り組みました。当日は、布沢集落の皆さんにもたくさん応援に来ていただき、児童の指導にあたっていただきました。

先進的な農業の学習では、ヤンマーアグリジャパン本宮支店の菅野さんに、最新のラジコン草刈り機を操作していただき、中庭の端と端にいてもリモコンで機械を動かすことができること、傾斜が45度の急斜面で草刈りができること、草の多い場所ではエンジンを止めないように自動で草刈り機の移動速度が落ちることなどの最新性能の話もあり、ラジコン草刈り機は予想以上に児童の関心を引きました。予定より実演に時間をとったため、短時間となりましたが当所職員からは「お米づくりのスマート農業」話がありました。

児童の感想は「最新の農業機械を見ることができて良かった」、「機械の操作が面白そうだった」、「将来役に立つ授業だった」との発言がありました。

今回の授業をきっかけとして、児童たちが農業に関心を持ち、自分も将来やってみたいと思ってもらえればうれしいです。



手際の良い布沢のお母さんをよく見て作業します



田んぼの校長先生が直接指導です



最新型のラジコン草刈り機です



ラジコン草刈り機の実演です

【担当部署】 農村整備部

【振興方向】 4 豊かな農山村の形成と活性化

令和6年度田んぼの学校「稲刈り」と「脱穀」を行いました！

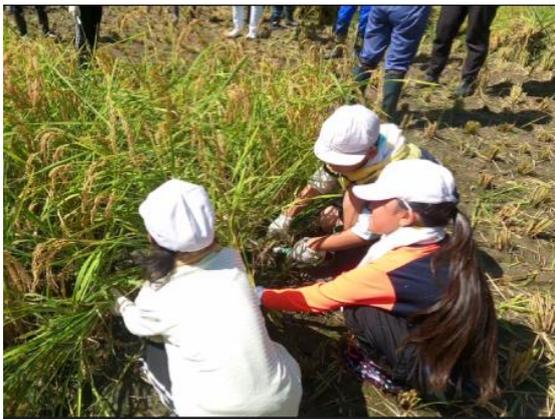
二本松市立東和小学校の5年生37名が「田んぼの学校」の「稲刈り」(令和6年9月13日(金)) 2ヶ月後「脱穀」(11月8日(金))を行いました。

田んぼの学校は、「ふくしまの農育」推進事業の一環として、農村地域の重要な要素である農地、土地改良施設及び周辺の自然環境を学びの場として活用する事業ですが、当所では、田んぼの持つ多面的機能の学習環境に恵まれている「東和の布沢棚田」で「布沢の環境を守る会」の協力により、5年生の児童が年間を通した米作りの体験学習を行っています。

今年の稲刈りは、県内でも一足早い稲刈りとなったことから、テレビ局2社の取材があり、児童と一緒に取材記者も稲刈りを行いました。児童は、田んぼの校長先生から鎌の使い方をきちんと教えてもらった後、稲刈り、稲まるき(稲を束ねて縛る作業)、稲架(はさ)掛けを行いました。中には、稲刈りが得意な児童もおり、「(先生)教えてあげるよ。こうやって持って、ここをきゅっとやるんだよ(刈るんだよ。)」と担任の先生に稲刈りを教えている場面もありました。

脱穀では、3種類の脱穀機(千歯こぎ、足踏み脱穀機、ハーベスター)を体験し、児童からは、「お米づくりの大変さがよく分かりました。お米の大切さを感じることができました。」との感想を聞くことができました。

脱穀体験の後は収穫祭(もちつき大会)を予定しています。12月の収穫祭が楽しみです。



稲刈り楽しいね



みんなで収穫したよ



穂先にあてるのは難しいね(千歯こぎ)



右に左にリズム良く(足踏み脱穀機)

【担当部署】農村整備部

【振興方向】4 豊かな農山村の形成と活性化

国見小学校の児童が「天のつぶ」の稲刈りをしました

令和6年9月24日（火）、農業や農作物への理解を深め、食の恵みや豊かさ大切さを伝えるため、国見小学校5年生児童を対象とした農業体験学習（稲刈り作業）が開催されました。

この刈取りを行った学習田は、令和6年5月9日（木）の農業体験で児童が田植を行い、地域の中心的な担い手である小坂アグリ株式会社が管理をしていました。

実りを迎えたお米（福島県オリジナル品種「天のつぶ」）を、関係機関・団体・当普及所職員のサポートで児童達が手刈りを行いました。

児童達は、稲刈り前に鎌の使い方等の説明を受けた後、稲刈り鎌を使って刈取と刈り取った稲の結束作業、ほ場内で杭がけ作業までの一連の作業を行いました。

代表児童からは「初めのうちは刈るのも紐を結ぶのも難しかったけど、だんだんできるようになって、楽しかった。」「刈った稲を紐で結ぶのが難しかった。先生に教えてもらったら上手にできて、嬉しかった。」等の感想や感謝の言葉が述べられました。

当普及所では、今後も関係機関と連携しながら安全・安心な米作りや食育活動を支援していきます。



稲刈りの仕方を教える当普及所職員



子供たちの稲刈りの様子



コンバインでの収穫作業を見守る子供たち



講評を行う農業普及所長

【担当部署】伊達農業普及所

【振興方向】4 豊かな農山村の形成と活性化

「ふくしまの農村学びの場現地見学会」を行いました

令和6年10月9日（水）、福島県立福島明成高等学校環境土木科1年生24名に、県北地域の農業用排水路、暗渠排水の工事現場と土地改良施設（農業に欠かせないダム）の見学会を行いました。

基盤整備促進事業の「山木屋地区」では、工事施工業者の菅野建設工業(株)や設計測量業者の(有)武藤測量事務所に協力をいただき、水路や暗渠排水を設置する意味や役割、工事方法（丁張り、掘削、製品敷設など）、また、その位置や高さを決めるための測量や設計の方法について工事現場見学と、室内で動画や写真、及び測量機器の紹介などを通じて学習してもらいました。雨天のため、現場での測量や丁張り、工事体験は出来ませんでした。室内での説明に対して「1枚の平面図を作成するのにどのぐらいの時間がかかるのですか？」といった質問があり、農業土木事業へ関心をもっただけの機会になったのではと思います。

土地改良施設である「山ノ入ダム」と「油井川頭首工」の見学では、普段入れない管理施設内の見学や頭首工の堰の管理橋を渡るなど、施設の役割とともに監視体制や操作などの管理方法についても学んでいただきました。農業用水を確保するための重要な施設であり、水不足や事故、災害が生じないように日々管理されていることを知っていただけたと思います。



山木屋地区 工事現場
菅野建設工業(株)から説明



山木屋地区 測量研修(室内)
(有)武藤測量事務所から説明



山ノ入ダム見学（管理事務所内）



油井川頭首工見学

【担当部署】農村整備部

【振興方向】4 豊かな農山村の形成と活性化

令和6年度県北地方植樹祭が開催されました

令和6年10月17日(木)、令和6年度県北地方植樹祭が二本松市岳温泉町大和ため池(緑が池)緑地広場で開催されました。

今回の植樹祭では、ベニシダレザクラやイロハモミジなど安達太良山の景観にふさわしい樹種が選定され、安達太良小学校6年生の児童達が記念植樹等を通じて、貴重な森林環境の保全、森を育てる意識の醸成が図られました。

本県ではこれまでも、県民の皆様と共に、次世代に森林を引き継ぐための活動に取り組み、多くの方々が森林とのふれあい活動に参加し、森林づくりの意識が高まっています。

当所では、今後も県民の皆様と森林と関わる機会を創出し、森林への理解を深め、「未来へつなぐ希望の森林づくり」に取り組んでいきます。



県北地方植樹祭集合写真



記念植樹の様子

【担当部署】 森林林業部

【振興方向】 4 豊かな農山村の形成と活性化

「おおたま村づくり株式会社」が豊かなむらづくり全国表彰事業で 東北農政局長賞を受賞

令和6年11月12日(火)、令和6年度豊かなむらづくり全国表彰事業東北ブロック表彰式が仙台市で開催され「むらづくり部門」で大玉村の「おおたま村づくり株式会社」が「東北農政局長賞」を受賞しました。

この事業は、農山漁村におけるむらづくりの優良事例の表彰を行い、むらづくりの全国的な展開を助長し、もって地域ぐるみの連帯感の醸成及びコミュニティ機能の強化を図り、農林水産業・農山漁村の活性化に寄与することを目的に昭和56年から行われています。

おおたま村づくり株式会社は、「あだたらの里直売所」を核として、大玉村産農産物を地元だけでなく、JR東日本と連携し、当日の朝に収穫した新鮮な野菜を新幹線の空きスペースを活用して速やかに輸送して東京駅で販売する取組を行うなど、創意工夫して販売することで、地元農産物のPRや農家所得の向上に貢献しています。

また、社員がJGAP指導員資格を取得して生産者の指導を行い、GAP認証取得を推進したり、大玉村産米のイメージ向上のため、「あだたらの里「福、笑い」研究会」を立ち上げ生産から販売まで支援を行うなど、地域農業の振興に寄与しています。

更に、学生等のインターン・農業体験を受け入れ、小中学校等で食育を実施して、未来の大玉村に関わる人材の育成を行っています。

以上の取組が高く評価され、今回の受賞となりました。今後も、「むらづくり」は「人づくり」との理念に基づく、「おおたま村づくり株式会社」の発展が期待されます。



東北農政局長より賞状を授与される
おおたま村づくり株式会社の鈴木代表取締役



受賞団体と東北農政局長他

【担当部署】 安達農業普及所

【振興方向】 4 豊かな農山村の形成と活性化

『栗本堰を訪ねる小学生勉強会』が開催されました

令和6年11月19日（火）、福島市土地改良区が『栗本堰を訪ねる小学生勉強会』を大笹生小学校で開催しました。

このイベントは、「水の恩恵を受けている住民等が、農業農村の現状や課題について理解を深め、さらに農村地域の活性化を図る」ことを目的とした県の「水土里を育む普及促進事業」を活用して実施したものです。

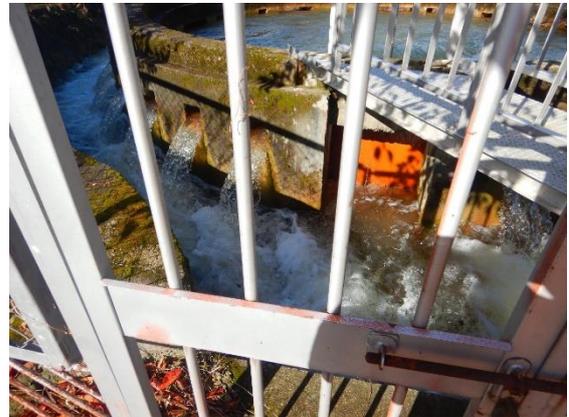
栗本堰は、全長約2,170メートルの農業用水路です。江戸時代後期に作られ、現在のコンクリート製のものは、昭和25年頃完成されたものです。

当日は、4年生12名が、現地にて栗本堰の歴史、役割及び構造について、施設を管理している地元の方々から学びました。また、堰の水の水質検査を様々な薬品や装置を使って行い、堰の水がきれいなことを確認しました。

参加者は、地域に残っている土木遺産に触れるとともに、農業用水の重要性について理解を深めました。



栗本堰の円形分水



円形分水のアップ



薬剤を使って水質検査をする児童

【担当部署】 農村整備部

【振興方向】 4 豊かな農山村の形成と活性化

「令和6年度安達地域担い手資質向上セミナー」を開催しました

令和6年11月21日（木）に安達地域担い手支援連携会議主催による「令和6年度安達地域担い手資質向上セミナー」を（株）JAふくしま未来サービスラポートあだちで開催しました。

当日は、当普及所管内の認定農業者、農業委員、農地利用最適化推進委員等、地域の農業を守る担い手と、関係機関から約75名が参加しました。

セミナーでは、愛知県の魅力ある地域づくり研究所代表の可知祐一郎（かちゆういちろう）氏から、「地域の農地を守る新たな選択肢『地域まるっと中間管理方式』」と題して講演していただき、各集落の農地を守るため、集落で一般社団法人を設立し、地域の農地をまるごと借り受け、営農部門と地域資源管理部門を担う「地域まるっと中間管理方式」という手法について学びました。

参加者からは、自分の集落の農地を守りたいという強い思いからか、多くの質問が出され、セミナーが終了した後も、可知氏に直接話をしに行く姿が見られ、講演後のアンケートでも、もう一度、もっと詳しく学びたいとの声が多数寄せられ、関心の高さがうかがわれました。

当普及所では、安達地域の農業を守るために、今後も担い手の資質向上のためのセミナーの開催等を通して、支援を行っていきます。



魅力ある地域づくり研究所代表の可知祐一郎氏による講演



講演会には多くの担い手が参加しました

【担当部署】安達農業普及所

【振興方向】4 豊かな農山村の形成と活性化

令和6年度多面的機能支払交付金県北方部研修会を開催しました

多面的機能支払交付金は、地域の共同活動（農道の草刈り、水路の泥上げ等）と地域資源（農地、水路、農道等）の保全への取組に助成し、農業・農村の有する多面的機能（国土の保全、水源涵養、自然環境の保全等）の維持・発揮を目的としています。

（参照：農林水産省 https://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/tamen_siharai.html）

今回で2回目となる研修会を、令和6年11月22日（金）に福島県消防学校で開催し、48の活動組織をはじめ、市町村、及び土地改良区も含めて84名の方々に参加いただきました。

本年度の研修会は前回のアンケート結果を踏まえ、活動組織の広域化（※）をより具体的な内容で学び、県北管内での広域化の機運を高めることを目的に開催しました。

研修会では広域化の要件・要件確認の方法、広域活動組織の設立手順・設立までの課題を説明し、広域化を実現した北塩原村多面的機能支払広域協定からノウハウを学ぶため講演をいただきました。

活動組織の広域化は事務負担軽減等の一手段であり、活動組織が取組を継続していくためにも必要なことと考えておりますので、今後も広域化に限らず有益な情報を提供できるよう支援していきます。

※ 活動組織の広域化

旧市町村単位等の広域エリアにおいて、集落又は活動組織、NPO、地域の関係団体等から構成される、構成員間の協定に基づく組織である広域活動組織を設立すること。



研修の光景（講演）



質疑応答

【担当部署】農村整備部

【振興方向】4 豊かな農山村の形成と活性化

林業アカデミーふくしま長期研修生募集

林業アカデミーふくしま就業前長期研修では、県内の林業を支える担い手を育成しており、令和7年度研修生を募集しています。

福島県の森林・林業に興味のある方や、福島県の森林で働きたい方など応募をお待ちしております。

受講条件 あり（詳細は県 HP をご覧ください。）

募集定員 8名

申請期間 令和7年1月9日（木）～1月24日（金）

申請先・問合せ先 福島県林業研究センター企画研修部（郡山市安積町）

Tel 024（945）5974

二次元コード

（1）「林業アカデミーふくしま HP」



※募集要項の詳細について、ご覧いただけます。

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/forestry-academy-fukushima/recruitment.html>

（2）「林業アカデミーふくしま Facebook」



※長期研修のようすについて、ご覧いただけます。

https://www.facebook.com/forestry.academy.fukushima/?locale=ja_JP



林業アカデミーふくしま 校舎



林業アカデミーふくしま長期研修の様子

【担当部署】 森林林業部

【振興方向】 5 その他

～随時、情報を発信しています～

当所では、農林水産部公式 Youtube チャンネル、ホームページ、SNS（Instagram）で、
県北地方の食と農、農林業と農山村に関する情報を随時発信していますので、どうぞ御覧ください。

農林水産部公式

当所ホームページ

当所Instagram

Youtube チャンネル



編集・発行 福島県県北農林事務所 企画部 地域農林企画課

電話 024-521-2596 FAX 024-521-2850

ホームページ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36210a/>

電子メール kikaku.af01@pref.fukushima.lg.jp

